

祝祭日から見る朝鮮半島

(2010年6月)

column3

北陸大学未来創造学部講師
福山 悠介

各国の祝祭日には、その国の文化、歴史、価値観が反映されている。祝日は、その国家の形成において祝いとすべき日を定めたものであり、祭日はその国の伝統、文化、宗教的に祭るべき日を定めたものである。本稿では、祝祭日を通じて南北朝鮮を比較してみたい。

祝日から見てみよう。韓国では「3.1節(3月1日、1919年3月1日に日本からの独立をすべく始まった3.1独立運動を記念する日)」、「顕忠日(6月6日、朝鮮戦争の戦没将兵を追悼する日)」、「光復節(8月15日、日本統治から解放された日)」がこれに当たる。かつては「制憲節(憲法記念日)」、「ハングルの日」「国軍の日」なども公休日であったが、現在ではそれぞれ式典などは開催されるものの休日とはならないことになっている。もう一点、注目すべき点がある。それは8月15日が大韓民国建国の日でもあるにも関わらず、名称が「光復節」と、日本からの解放を祝するだけという点である。

北朝鮮の祝日にはいくつかの類型が見られる。

第1に北朝鮮が基本的には社会主義国であることに由来する祝日がある。3月8日に「国際婦女節(国際女性デー)」、5月1日に「国際労働者節(メーデー)」、6月1日に「国際児童節(いわゆる子どもの日)」といった、旧社会主義陣営に共通の国際祝日が制定されている。

第2に日本統治の歴史に由来する祝日として、3月1日を「人民蜂起記念日」として、8月15日を「祖国解放記念日」として祝する。これは名称こそ異なるが、韓国と共通の祝日である。

第3に北朝鮮政治に由来する祝日がある。4月25日「朝鮮人民軍創建日」、6月25日「祖国解放戦争勃発日(朝鮮戦争勃発日)」、7月27日「祖国解放戦争勝利記念日(同休戦協定締結記念)」、9月9日「共和国創建記念日(1948年9月9日に建国)」、10月10日「朝鮮労働党創建記念日」、12月27日「社会主義憲法節(憲法記念日)」である。韓国と異なり、日本からの解放と建国が異なるため、両方とも祝日となっている。また朝鮮戦争は北朝鮮にとって南朝鮮(韓国)を解放するための「聖戦」であること、実質的には休戦であっても国内的には「勝利」と規定されていることから、開戦と休戦の双方とも祝することとなっている。もう一点言及してみると、軍と党の創建日が祝日となっているのが特徴的である。北朝鮮の統治にとって、この2つがいかに重要であるかが理解できるだろう。

祭日の比較も面白い。南北ともに、1月1日は新暦の元日として祝うが、旧暦の正月(ソルラル)をより重視する(旧暦1月1日前後)。また、端午の節句(韓国では新暦、北朝鮮では旧暦で5月5日)とお盆に当たる秋夕(チュソク、旧暦8月15日前後)も南北共通で公休日となる。

韓国では、旧暦4月8日に釈迦誕生日、10月3日に開天節(朝鮮半島の建国の祖という伝説の檀君に因む)、12月25日に聖誕節(クリスマス)を祭日としている。韓国に国教はないが、国民の約30%がキリスト教、約20%が仏教と言われる。ソルラルやチュソクは、儒教を背景とした朝鮮半島の伝統文化である。また、旧暦と新暦も双方、用いられる。そう考えると、異なる宗教の記念日を複数祝日にして

いるということが、現代韓国社会を考える1つの手がかりとなるのかもしれない。

北朝鮮にも国教はない。憲法において信教の自由は謳われているものの、国際社会の多くからは信教の自由は全く存在しないと考えられている。当然、宗教に由来した祭日は設定されていない。そのかわり、「民族の名節」として祭日が規定されている。上述したソルラル、チュソク、端午の節句に加えて、小正月(旧暦1月15日)が民族の伝統に裏付けられた祭日として規定されている。

そして何よりも重要なのが「民族最大の名節」と謳われる2月16日、現在の指導者である金正日の誕生日と、4月15日「太陽節」、金正日の父親であり、前の指導者である故金日成の誕生日である。単純な比較は厳に慎まなければならないが、日本で今上天皇の誕生日が祝日(12月23日)であること、また昭和天皇の誕生日(4月29日、昭和の日)が祝日であること、さらには明治天皇の誕生日(11月3日、文化の日)が祝日であることを考えると、北朝鮮にとって金正日・金日成親子がどのような存在であるのかを考える一助となるかもしれない。蛇足であるが付言すれば、韓国にそのような祝日がないことも併せて考えたい。